

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
58	川崎市立坂戸小学校	押田 春美

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○明るく健康な子</li> <li>○やさしく思いやりのある子</li> <li>○よく考え行動する子</li> <li>○最後までやりとげる子</li> </ul>	<p>【学校生活の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人ひとりの子どもを大切にするために」何ができるのかを考え、教職員が学校運営に参画していく。</li> <li>・子どもたちが前向きな気持ちで学校生活を送ることができるように、環境を整えていく。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学校生活の充実	<p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導の充実</li> <li>・「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業づくり</li> <li>・主体的・対話的で深い学びになるような授業展開の工夫</li> <li>・指導内容の明確化と評価方法の工夫</li> <li>○校内研究及び研修の充実</li> <li>・指導力の向上</li> <li>○支援教育の充実</li> <li>・一人ひとりのニーズにあった支援と体制づくり</li> <li>・児童の実態把握</li> <li>・一人ひとりに寄りそった適切な指導や支援</li> </ul>	<p>保護者・児童・教職員共に80%以上が、「学習内容をよく理解しています」の設問で「そう思う」「ややそう思う」と回答している。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」という意見も数%あることから、指導や支援の方法について研鑽を積み、児童らにできる喜びや分かる楽しさ、集団で学ぶよさを味わわせられるよう、さらなる指導力向上を目指すことが必要と考えている。また、引き続き、授業参観や個人面談などで学校での学習状況を伝えたり、家庭での児童の様子を聞いたりしながら、よりよい指導を考えていく必要があると考えている。</p>	<p>校内研究や研修を通して指導力向上をめざすとともに、「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業づくりに今後も取り組んでいく。また、児童の実態を把握し、一人ひとりのニーズにあった指導や支援の方法を再考していく。</p> <p>個人面談などを通して学校での学習の様子を伝えたり、家庭での児童の様子を聞いたりしながら、よりよい指導を考えていく。</p>
2 学校生活の充実	<p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的な態度の育成</li> <li>・当番や係、委員会等の取組の充実</li> <li>・主体的に行動できる環境づくり</li> <li>・望ましい人間関係の形成</li> </ul>	<p>「学校での自分の役割に責任をもち、工夫して取り組んでいます」の設問に対し、保護者・児童・教職員とも、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は90%以上で、本校の強みであると考えている。責任をもって取り組む姿は、どの学年にも共通している。しかし工夫することに関しては、低学年では難しいことが多く、高学年では、できる児童とできない児童が2極化している傾向も見られる。</p> <p>「自分から進んで返事や挨拶ができます」の設問では、89%の子どもたちが「そう思う」「ややそう思う」と回答しているが、教職員の回答では28%が「あまりそう思わない」と回答している。保護者の84%の「そう思う」「ややそう思う」の回答を鑑みると、学校よりも家庭では進んであいさつをすることができているのではないかとと思われるものの、明るい学校の原点ともなるあいさつが、学校でも進んでできるようになることが必要と考えている。</p>	<p>当番、係活動、実行委員、委員会、クラブ、校外学習など、児童が積極的に取り組んでいける場を設定していく。</p> <p>教職員自らが積極的に挨拶をすることで、児童に範を示すとともに、挨拶することで他者との心が通い合うことの良さを伝えていく。</p>

3	学校生活の充実	<p>○児童支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の意識の向上</li> <li>・相談できる雰囲気や環境づくり</li> <li>・支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実</li> <li>・次年度への引継ぎ</li> <li>・関係機関との連携</li> </ul>	<p>「学校で困った時に友達や先生に相談しています」という設問に対し、昨年度同様90パーセント以上の児童が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。一方保護者は、昨年度同様児童・教職員よりも「あまりそう思わない」「そう思わない」という回答が多い結果となった。児童は家庭で、友達や先生に相談したり解決したりしたことはあまり話さず、相談せずに困っていることを話しているとも考えられる。また、学校で相談できていない児童の中には、「先生に言う(相談する)」ことを友達からどう思われるかを気にしすぎたり、援助要求が苦手だったりするケースもあるように思うが、この点は課題と感じている。</p> <p>「学校に行くのは楽しい」の設問では、児童の「そう思う」「ややそう思う」の回答が、昨年度より5ポイント増えた。校庭が使えない状況が続いているが、子どもたちも、今ある環境の中でどのように工夫して過ごせばいいのか考えて行動してきたことで、このような環境に慣れ、活動することができるようになってきたと考えている。</p>	<p>家庭と協力して児童を支えていけるよう、相談しやすい雰囲気や環境づくりに努めていくとともに、「SOSの出し方・受け止め方教室」も継続し、「先生や友達に相談することは悪くないこと」や「相談することによって、解決することのよさ」について子どもたちに伝えていく。</p> <p>教室や屋上、体育館、高津中学校の校庭など、様々な場所を活用しながら学習活動を進め、どのような活動をすれば子どもたちが楽しく学校に登校できるかについて引き続き検討と改善に努めていく。異学年交流やイベントを児童主体で企画するなど、誰もが楽しくなるようなことを子どもたちと一緒に考え学校生活の充実を図っていく。</p> <p>子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の土台となる、学校生活への意欲を高められるような様々な視点から手立てを考えていく。</p> <p>支援教育コーディネーターを中心にして、経験の浅い教職員が指導・支援の方法を学ぶ機会を設定していく。</p> <p>引継ぎを丁寧に行い、教職員が自分事として捉え、児童への継続的な指導や支援ができるように</p>
4	学校生活の充実	<p>○健康教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キラキラタイムの活用</li> <li>・健康的に生活できる基礎づくり</li> <li>・栄養士による食育</li> <li>・養護教諭による健康教育</li> </ul>	<p>校舎増改築工事の為校庭が使用不可となっていることから、体力向上のために、キラキラタイムを設定したり、休み時間に体育館やB棟屋上を開放したりしてきたことで、「学校で元気よく体を動かしています」の質問で、90%近い児童から肯定的な回答を得ることができた。</p> <p>児童は、けがをしないように気を付けて運動したり、手洗いやうがいを継続したりしている。また、好き嫌いせず給食を食べることを意識できてきていることから、「日頃の生活の中で、自分の健康や安全について意識しています」の質問で90%以上の児童が肯定的な回答をしている</p>	<p>次年度は、キラキラタイムや坂戸小校歌舞祭のダンスを活用するとともに、体育館、増築校舎の屋上を開放を継続し、体を動かす機会を意図的に増やしていく。</p> <p>栄養バランスのとれた食事と運動、衛生面に気をつけることが健康な体につながっていくことを、子どもたちに伝えていく。</p>
5	人権尊重教育	<p>○人権尊重教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による人権教育の実施</li> <li>・人権意識の向上</li> <li>・いじめや暴力は許さないという環境づくり</li> </ul>	<p>児童・保護者とも94%が、「学校で友達にやさしくしたり周りの人のことを考えて行動したりしています」と肯定的な回答をしている。坂戸っ子の素直でやさしい側面が表れていると感じている。</p>	<p>高学年が低学年を保健室に連れてきたり、困っている子に声をかけたりしている姿も多く見かける。日々の学校生活の中で、やさしさが感じられる行動を価値づけながら、思いやりの心情を育むように努めていく。</p> <p>研修等を通して、いじめや人権への意識を向上させ</p>

6	人権尊重教育	<p>○キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を尊重しあえる望ましい人間関係の形成</li> <li>・自己肯定感の向上</li> <li>・集団における所属感の育成</li> <li>・キャリア在り方生き方教育の推進</li> <li>・「かわさき共生＊共育プログラム」効果測定を推進</li> <li>・GIGA端末活用上のモラル教育の推進</li> </ul>	<p>「困ったときや苦手なことにも最後まであきらめずに取り組んでいます」の設問では、児童の92%が最後まであきらめずに取り組んでいると感じ、昨年度より12ポイントも増えている。しかし、保護者の「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合は、児童と比べると9ポイント高くなっている。児童は、学校では自分の役割に頑張っており取り組んでいることから、学校での姿と家での姿に多少違いがあると考えられる。また、児童の肯定的評価は、あきらめそうになったときに、教職員やご家庭での支援があり、結果的に「最後まで取り組めた」結果であるとも考えられる。</p> <p>95%の児童が「約束を守って行動しています」と回答している。学校の約束を守ることが安心して安全に学校生活を送ることにつながるということを児童に指導してきた結果ととらえている。しかし、学校に持ってきてはいけないものを持ってきてしまったり、遊ぶときやGIGA端末の使い方でトラブルが起き</p>	<p>児童が物事を最後まであきらめずに取り組めるよう、一人一人の様子を丁寧にみとり、意欲の継続につながる価値づけをしていく。学習や友達関係以外の諸活動を通して培われた力が「苦手なことにも最後まで取り組む力」につながっていると考えている。課題を解決していくためにも、今後の諸活動を充実させていく。</p> <p>GIGA端末については、正しい使い方をはじめ、情報モラルの大切さをその都度確認しながら、今後も継続して指導していく。学年に応じた外部講師による情報モラル教室も行いながら、保護者への啓発にも取り組んでいく。</p> <p>学校の約束を守ることが安心して安全に、仲間との楽しい学校生活を送ることにつながるということも、今後も児童に伝えていく。</p>
7	安全・安心	<p>○危機管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルに基づいた訓練の実施</li> <li>・職員の危機管理に関する共通理解、危機管理体制の充実</li> </ul>	<p>児童の安全・安心が確保できるように「火災」「地震」「水害」「不審者」への対応について訓練をしている。校舎増改築工事のために校庭を避難場所として使用できないことから、「火災」「地震」への対応としては、高津中学校への避難経路を確認したり、体育館へ避難を実施したりして訓練することができた。「不審者」への対応は、スクールガードリーダーの協力を得て、実施している。また、教員が近くにいない場合もあり得ることから、休み時間に児童だけでも避難できるように、予告なしでの訓練にも取り組んでいる。日頃の訓練の成果が出て、予告なしでも避難場所への避難ができた。</p>	<p>次年度は、校舎解体工事のために校庭を避難場所として使用できない。また、増築校舎での学校生活に代わることから、新たな避難経路については、安全なものとしてできるよう動線を確認しながら「火災」「地震」発生時の避難場所を確保したり、よりよい避難方法を模索したりする。</p> <p>「不審者」への対応についても継続的に実施していきたい。</p> <p>児童が自分の命は自分で守れるように育てていきたい。</p>
8	地域とある学校	<p>○家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の機能強化</li> <li>・「学校だより」「保健だより」「給食だより」「ホームページ」等の積極的な活用</li> <li>・学校評価の推進・教育活動の改善</li> <li>・保護者・地域の協力によるよりよい教育活動の充実</li> <li>・地域教育学習の充実</li> </ul>	<p>情報発信に関する肯定的な回答が約90%で昨年度と同程度得られた。</p> <p>保護者・地域の協力による教育活動が充実しており、大根づくりやユウグレナ社による出前授業など、各学年が地域とかかわり、川崎や地域のよさを活用した学習に取り組むよう努めている。今年度もNECグリーンスマイリングのスタッフの力を借りて水泳指導を行うことができた。また、各教科等の特質を踏まえ各学年の発達の段階に応じて、地域教材を生かした教育活動を行っている。</p> <p>有志による合唱団が、地域に歌声を披露する場を設け恩返しできるような活動にも取り組んでいる。</p>	<p>来年度は、新しい増築校舎での生活が始まることから、保護者・地域の方にも学校に足を運んでいただき、児童の活動の様子をご覧いただく機会を設けていく。</p> <p>今後も継続して、ミマモルメやホームページ等様々な方法で学校の様子を発信していく。</p> <p>保護者・地域の協力を得ながら、教育活動を充実させ、保護者・学校・地域とともに児童の育成にあたっていきたい。</p> <p>郷土愛へとつながるように、子どもたちへ地域の大切さを伝え、自分たちが住んでいる地域へ感謝する態度を育てていきたい。</p>
学校関係者の評価		学校運営のまとめ		
<p>学校運営協議会の中で、今年度の学校の取組と学校評価アンケートの児童・保護者・教職員の回答結果から分析した成果と課題について説明をした。また、児童から今年度を振り返って「お互いに協力し合い、思いやりをもって関わることができる」という坂戸小の良さと、「トイレの使い方」「ルールをまもれないこと」など課題についてお伝えした。委員の方からは、「児童が、課題に対して改善策を具体的に考えていることが良い」と評価していただいた一方で、校庭で遊べないことが起因してか、「図書室内で鬼ごっこをしたり、棚によじ登ったりする子は減ってはきたものの、ストレスがあるかもしれない」「体育館開放を増やして欲しい」とのご意見や、「教職員で挨拶しない人がいる」というご指摘を受けた。また、保護者と児童の回答に差があることについて、「学校では頑張っているのに、家で甘えが出るのかもしれない。どこかで息抜きしないと。」「学校の取組が保護者に十分に伝わっていない部分があるのではないかな。もっと学校の取組について知らせていく</p>		<p>教職員は、「一人ひとりの子どもを大切にすること」を意識して学年・学級経営に取り組んでいる。そして、学校教育目標と日々の教育活動を結び付けて考えられるように、校務分掌や学校評価アンケートを見直してきた。そのことにより教職員一人ひとりが学校運営に参画する意識ができ、総括教諭を中心として様々なことに取り組む様子が見られるようになってきている。更なる意識向上と教育活動の充実を図ってきたい。</p> <p>また、経験年数が少ない教職員が多くなってきているので、教職員の各ステージにあったOJTに取り組むことで、資質・能力をより一層向上させていきたい。あわせて、教育公務員としての自覚と誇りをもった言動がとれるようにし、児童・保護者・地域の信頼を構築できるように努めていく。</p> <p>来年度から増築された校舎に移り、学校の生活環境が大きく変わることから、これまで以上に子どもたちの様子を見とり、子どもたちが安心・安全に生活できるように配慮していく。</p>		